

平成23年度
外部評価委員会報告書

平成24年1月26日(木)

香川高等専門学校

ま え が き

独立行政法人国立高等専門学校機構 香川高等専門学校は、平成 23 年 10 月 1 日に統合後丸 2 年が経過し、この間の活動成果に関する客観的な評価を受けることを期待して、このたび平成 23 年度外部評価委員会を開催しました。ここにその概要を報告書として取りまとめましたので、関係各位からの忌憚のないご意見・ご指導をお願いする次第です。

香川高等専門学校では、独創性に富んだ高度実務技術者養成教育をより強力に推進し、地域社会の発展並びに国際社会で貢献しうる人材を輩出するように、また大学とは異なる高等教育機関として、高専の魅力を一層高めていくことを使命として掲げています。本年度の委員会では、前年度の外部評価委員会のご指摘に関する改善点を取りまとめるとともに、特に以下の四つの観点での評価をお願いしました。

1. キャリア教育・就職進学について
2. 地域連携・研究協力について
3. 国際交流活動について
4. 広報活動について

昨年度の活動で中学生の高専志願者確保の点で不十分であったことから、昨年 3 月からこれまでの活動を抜本的に見直して、平成 24 年度入学志願者増に関する活動を続けてまいりました。この結果については来年度の外部評価委員会で報告させていただきたいと考えています。

平成 23 年度は独立行政法人国立高等専門学校機構の第 2 期中期目標中期計画の中間年に当たっていますので、統合高専としての充実度を確実に開示していかなければならない時期であると捉えています。そのための独創性に富んだ高度実務技術者養成教育の推進の現状、地域社会の発展への貢献度、その他香川高専の魅力の向上への努力の状況を、産官学の外部有識者各位から精査いただき、客観的なご意見を頂戴することは、今後の活動への重要な指針となるものと考えます。

外部評価委員会において大所・高所から頂戴したご評価並びに厳しいご意見を、香川高専の全教職員が真摯に受けとめて、これを生かして一層の教育と研究の質の向上並びに社会貢献へと繋げていきたいと念願する次第です。

最後になりましたが、ご多用の中、香川高専の外部評価に携わっていただいた委員の皆様、とりわけ委員長として取りまとめ下さいました香川大学工学部長増田拓朗先生のご尽力に深謝申し上げます。

関係各位の皆様方へは、今後とものご鞭撻とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成 24 年 2 月 13 日

香川高等専門学校長 嘉門 雅史

目 次

まえがき

1. 平成 23 年度香川高等専門学校外部評価委員会議事次第	1
2. 香川高等専門学校外部評価委員会委員名簿	3
3. 香川高等専門学校外部評価委員会規程	5
4. 平成 23 年度香川高等専門学校外部評価委員会資料一覧	7
5. 平成 22 年度香川高等専門学校外部評価委員会での提言 に対する対応状況	9
6. 香川高等専門学校の現状と方針	
(1) キャリア教育・就職進学について	19
(2) 地域連携・研究協力について	33
(3) 国際交流活動について	49
(4) 広報活動について	61
7. 香川高等専門学校外部評価委員会委員からのご意見等（要約）	71

1. 平成 23 年度香川高等専門学校 外部評価委員会議事次第

平成 23 年度 香川高等専門学校外部評価委員会 議事次第

日時：平成 24 年 1 月 26 日（木）14 時～16 時 30 分

場所：香川高等専門学校高松キャンパス

専攻科棟 4 階 大講義室

1. 開会
2. 校長挨拶
3. 委員紹介
4. 委員長選出
5. 平成 22 年度外部評価委員会での提言に対する対応状況
6. 香川高等専門学校の現状と方針
 - ①キャリア教育・就職進学について
 - ②地域連携・研究協力について
 - ③国際交流活動について
 - ④広報活動について
7. 意見交換
8. 閉会

2. 香川高等専門学校

外部評価委員会委員名簿

香川高等専門学校 外部評価委員会 委員名簿

(氏名の五十音順 敬称略)

香川県中学校長会会長	岡 三雅
高松市副市長	岸本 泰三
高松工業会会長	住田 博幸
香川県商工会議所連合会専務理事	谷本 義隆
株式会社香川銀行取締役頭取	遠山 誠司
公益財団法人かがわ産業支援財団理事長	中山 貢
七宝会会長代行	長谷川 徹
香川高等専門学校産業技術振興会会長	平田 喜一郎
香川大学工学部長	増田 拓朗
香川県教育委員会教育次長	八木 和広
四国電力株式会社常務取締役	山地 幸司
三豊市長	横山 忠始

3. 香川高等専門学校外部評価委員会規程

香川高等専門学校外部評価委員会規程

平成 21 年 10 月 1 日制定

(趣旨)

第 1 条 この規程は、香川高等専門学校内部組織規則第 22 条第 2 項の規定に基づき、香川高等専門学校外部評価委員会（以下「委員会」という。）について定めるものとする。

(審議事項)

第 2 条 委員会は、香川高等専門学校の点検評価を踏まえ、今後の教育・研究並びに学校運営の一層の発展・充実に資するため、第 3 条に定める外部評価委員による次の各号に掲げる事項を評価する。

- 一 教育理念、目的、目標及び方針に関すること。
- 二 教育活動に関すること。
- 三 学生支援に関すること。
- 四 研究及び地域連携に関すること。
- 五 国際交流に関すること。
- 六 管理運営及び施設整備に関すること。
- 七 その他委員会が必要と認める事項

(組織及び任期)

第 3 条 委員会は、校長が評価項目に関し、十分な評価能力を有すると認められる学外の評価委員をもつて組織する。

2 委員は、校長が委嘱する。

3 委員の任期は、2 年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第 4 条 委員会に委員長を置き、委員の互選により選出する。

(代理者の出席)

第 5 条 第 3 条の委員は、やむを得ない理由により委員会に出席できないときは、当該評価委員があらかじめ指名した代理者を、委員会に出席させることができる。

(評価実施方法)

第 6 条 委員会は、資料による調査、本校で実施するヒヤリング及び実施調査等で評

価を実施する。

(事務)

第7条 外部評価の実施に関する事務は、総務課研究協力係において処理する。

(その他)

第8条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、校長が定める。

附 則

この規程は、平成21年10月1日から施行する。

4. 平成 23 年度香川高等専門学校 外部評価委員会資料一覧

平成 23 年度 香川高等専門学校 外部評価委員会 資料一覧

1. 香川高等専門学校外部評価委員会規程
2. 平成 22 年度外部評価委員会での提言に対する対応状況
3. キャリア教育・就職進学について
4. 地域連携・研究協力について
5. 国際交流活動について
6. 広報活動について
7. 香川高等専門学校 平成 22 年度年度計画・実績報告
8. 香川高等専門学校 年報 2010
9. 平成 23 年度 学校要覧（日本語版、英語版）
10. 平成 23 年度 香川高等専門学校 FD・SD 研修会報告書
11. 四国地区高専知的財産紹介シート集

5. 平成 22 年度香川高等専門学校外部評価 委員会での提言に対する対応状況

5. 平成 22 年度香川高等専門学校外部評価委員会での提言に対する対応状況

副校長 橋本良夫

前年度の外部評価委員会におきまして、いろいろな提言をいただきましたので、その後の対応状況について、説明させていただきます。

まず1ページの「学生教育を充実して時代の要請に合うように高めていくべき」という提言についてです。いただいたご意見の詳しい内容につきましては昨年度の報告書に書いてある通りですが、教育の充実ということで、企業技術者活用プログラムがありますが、これは企業の技術者に授業に入ってもらい、学生を直接指導していただくというものです。インターンシップは、学生全員をインターンシップに行かせようということで取り組んでおります。戦略的技術者育成アドバンスコースは、長岡技術科学大学と協働で6校の高専が取り組んでいる指導的技術者を育てるプログラムですが、これに香川高専も入っています。外部講師による特別講演は、各界からいろいろな人をお呼びして、学生の視野を広げるための講演会を月1回程度開催しています。次に、外国人講師による英語の専門授業ということで、英語のための英語の授業ではなく、専門のために英語の授業をするというものです。また、成績不振の学生については特別補講を行っています。技術者としてのモチベーションを高めるために学内発明コンテストに本年度から取り組んでいます。

次は、2ページの「志願者確保のために様々なPR活動を行うべき」という提言についてです。今までにもいろいろなPR活動を行ってきましたが、今年度、特に取り組んだのは中学校訪問です。今年度は、岡山県や近隣の県を回ることを強化しました。また、在校生や教員が出身の中学校を訪問し、高専のPRをしました。それから、入学者募集説明会を今年は塾関係にも力を入れて行ってきました。また、以前から行われている中学校主催の高校説明会にも教員を派遣しています。今年は中学校のPTAの方から高専を見学したいということで、2校のPTAの方々が見学に来てくださいました。さて、今年度の入試の状況ですが、推薦入試については、今年は志願者が168名で、女子の志願者が34名と、女子がかなり増えました。まだ入試の半分が終わっただけですが、いろいろな取り組みの効果があつたのではないかと考えています。

次は、3ページの「様々な形での地域連携を一層強化していくべき」という提言についてです。まず本校は、平田会長がおられます産業技術振興会との連携を行っています。また企業の若手技術者向けの研修を行っています。イブニングセミナーは、企業の技術者と我々教員が夕方に集って、話をするものです。教職員のための地域の企業見学ですが、私たちは地元の企業のことをあまり知りませんので、私たちの方から地元の企業に見学に行こうという企画です。いろいろな企業の技術者向けの講習会を夏休みなどに行っています。それから、共同研究、技術相談などをやっていますが、詳しい内容は後ほど説明させていただきます。

次は、4ページの「今まで以上に三豊市のイベントに高専の学生に参加してほしい」とい

う提言についてです。今年度はみとよ少年少女発明クラブ、仁尾町八朔人形祭、みとよ商工まつりで簡単ロボット教室を行いました。それからみとよロボットコンテスト 2011、みとよマルシェ de おみや菓子、アイランダー2011などに本校の学生が参加しています。

次は、5 ページの「高専が行っている活動を地域に向けてもっとアピールするべき」という提言についてです。確かに香川高専がどうしているのかを一般の方々にご存じないと思ひまして、ホームページにできるだけお知らせやトピックスを掲載しています。それから、ICT オープンキャンパスというのを HP 上に開設しています。自治体の広報誌や記者クラブへの投げ込み、産業技術振興会を通した広報などを行っています。

次は、6 ページの「香川高専の魅力を PR し、英語力の向上には明確な指標を設けるべき」という提言についてですが、今年の志願者募集に当たっては、就職率が良く確実に技術者になれるということと、編入学によって国立大学に入学しやすいということ、専攻科から大学院に進学できることなどをアピールして PR 活動を行ってきました。また、英語力向上の取り組みですが、高専機構が行っている海外インターンシップにおいて、今年度は香川高専から2名が3月実施予定の海外インターンシップに参加することが内定しています。また、国際交流協定校との交流、TOEIC、ACE 試験等を実施しています。TOEIC では、日本人学生の最高点が 860 点で、留学生には 980 点というすごい学生がいます。なお、500 点以上が 43 名、400 点以上が 122 名います。これが現在の状況です。

次は、7 ページの「女子の志願者確保に向けた努力をするべき」という提言についてです。高専にはなかなか女子学生が志願してくれないのですが、女子中学生対象の女性技術者講演会、香川高専女子キャリア支援ホームページ、女子学生の組織としてどぼじょの会、土木女子の会の略ですが、こういったものに取り組んでいます。

次に、8 ページの「女子が興味を持ちやすい新学科の設置の検討をするべき」という提言についてですが、現在、将来計画タスクフォースという検討組織を設置し、中堅・若手の教員を中心に検討しています。女子学生の確保を視野に入れた物質科学系の新設、学科制ではなく入学後に専門を選択できるコース制の導入について検討を進めています。

次は、9 ページの「入学者の確保のために留学生の受け入れを積極的に行うべき」という提言についてです。今までは国費と政府派遣の留学生のみを受け入れていますが、今年度からは私費留学生の受け入れも行おうということで、高専機構が行っている私費留学生の入試に参加しました。今年度は残念ながら応募者がいなかったという状況です。また、高松キャンパスの女子寮には補食室という料理を作るキッチンがないので、改修して設置することを計画しています。男子寮には補食室あり、留学生たちはそこで自分たちの国の料理を作ったりしています。

次に、10 ページの「外部評価に当たってはどこを目指しているのかをまずは明らかにすべき」という提言についてです。外部評価を何のためにやっているのかというご意見かと思ひます。香川高専は「豊かな人間性を有し創造力に富む実践的な技術者の育成」、「地域における知の拠点としての社会貢献」を使命に掲げ各種の活動をしています。学校として、

外部評価委員の皆様をお願いしたい点は、どのような技術者を育成すべきなのか、私たちが思っているものと、実際に社会が必要としている技術者が食い違っているとまずいので、そういったことを提言していただければと思います。また、どのような社会貢献が期待されているのか、香川高専としてはどのようなことをやっていけばいいのか。さらに、香川高専の活動は外部から、外部評価委員の皆様は香川高専を注意して見てくださっているのでお分かりだと思いますが、まだまだどうしているのかが見えにくいと思いますので、そういったものについてご意見をいただけたらと思います。

最後に、11 ページの「みらい技術共同教育センターの地域に密着した活動を全学で行うべき」という提言についてです。実は高松キャンパスでも地域イノベーションセンターを中心に地域に密着したいろいろな活動を行っています。イブニングセミナーとか、教職員のための地域企業の見学など、最初の方で説明した各種の取り組みを地域イノベーションセンターを中心に高松キャンパスでも実施しています。

簡単ですが、以上が昨年度の提言に対する対応状況です。ここに述べた内容につきましては、後ほど各担当から詳しく説明させていただきます。どうもありがとうございました。

平成22年度外部評価委員会 での提言に対する対応状況



(独)国立高等専門学校機構
香川高等専門学校

2012年1月26日(木)

香川高専平成23年度外部評価委員会説明資料

1. 学生教育を充実して時代の要請に合 うように高めていくべき

- 企業技術者活用プログラム
- インターンシップ
- 戦略的技術者育成アドバンスコース
- 外部講師による特別講演会
- 外国人講師による英語専門授業(専攻科生)
- 特別補講(低学年数学成績不振学生向け)
- 学内発明コンテスト(パテントコンテスト入賞)

2012年1月26日(木)

香川高専平成23年度外部評価委員会説明資料

1

2. 志願者確保のために様々なPR活動を行うべき

- オープンキャンパス(各キャンパス2回)
- 中学校訪問(香川と隣接3県, 延べ159校)
- 在校生・教員による母校訪問
- 入学者募集説明会(香川5市町、倉敷、塾)
- 中学校主催の高校説明会
- 中学校PTAによる高専訪問(三木、木太中)

推薦志願者数129(18)→168(34)

2012年1月26日(木)

香川高専平成23年度外部評価委員会説明資料

2

3. 様々な形での地域連携を一層強化していくべき

- 香川高専産業技術振興会との連携
- 次世代ものづくり担い手のための基礎技術力養成研修の実施
- イブニングセミナーの実施
- 教職員のための地域企業見学会
- 企業技術者向け各種講習会の開催
- 共同研究, 技術相談

2012年1月26日(木)

香川高専平成23年度外部評価委員会説明資料

3

4. 今まで以上に三豊市のイベントに高専の学生が参加してほしい

- みとよ少年少女発明クラブ
- 仁尾町八朔人形祭り
- 第5回みとよ商工まつり～簡単ロボット教室
- みとよロボットコンテスト2011
- みとよマルシェ de おみや菓子
- アイランダー2011
- 「Enjoy Brass in みとよ」に吹奏楽部が参加

2012年1月26日(木)

香川高専平成23年度外部評価委員会説明資料

4

5. 高専が行っている活動を地域に向けてもっとアピールするべき

- 本校ホームページ(お知らせ, トピックス)
- ICTオープンキャンパス
- 自治体広報紙
- 記者クラブへの投込
- 産業技術振興会
- 研究シーズ集等の発行

2012年1月26日(木)

香川高専平成23年度外部評価委員会説明資料

5

6. 香川高専の魅力をPRし、英語力の向上には明確な指標を設けるべき

- 安定した進路の提供を中学生等にPR:
 - 就職率100%で確実に技術者になれる
 - 編入学によって国立大学に進学しやすい
 - 専攻科から大学院に進学しやすい
- 英語力向上への取り組み:
 - 高専機構による海外インターンシップ(2名内定)
 - 国際交流協定校との交流
 - TOEIC、ACE試験等の実施

TOEIC最高860点(980)
500点以上43人
400点以上122人

2012年1月26日(木)

香川高専平成23年度外部評価委員会説明資料

6

7. 女子の志願者確保に向けた努力をすべき

- 女子中学生対象の女性技術者講演会
- 香川高専女子キャリア支援HP
- 女子学生の組織(どぼじよの会, T-cube)
- 女子卒業生調査(約550名)を12月に実施
- 女子学生向けのキャリア支援講座
- 女性教員の確保の努力
- 女子中学生が興味を持つ新学科の検討

2012年1月26日(木)

香川高専平成23年度外部評価委員会説明資料

7

8. 女子が興味を持ちやすい新学科の設置の検討をするべき

- 将来計画タスクフォースを設置
- 中堅・若手教員を中心に下記を検討中:
 - 女子学生確保を視野にいたった物質科学系の新設
 - 学科制から入学後に専門を選択できるコース制へ

2012年1月26日(木)

香川高専平成23年度外部評価委員会説明資料

8

9. 入学者の確保のために留学生の受け入れを積極的に行うべき

- 現在は国費留学生と政府派遣留学生のみを受け入れ
- H24年度からは私費留学生も受け入れ
- 女子留学生受け入れのために女子寮に補食室を設置予定

2012年1月26日(木)

香川高専平成23年度外部評価委員会説明資料

9

10. 外部評価に当たってはどこを目指しているのかをまずは明らかにすべき

- 香川高専の使命：
 - 豊かな人間性を有し創造力に富む実践的な技術者の育成
 - 地域における知の拠点としての社会貢献
- 外部評価への期待：
 - どのような技術者を育成すべきか？
 - どのような社会貢献が期待されているのか？
 - 香川高専の活動は外部から見えるか？

2012年1月26日(木)

香川高専平成23年度外部評価委員会説明資料

10

11. みらい技術共同教育センターの地域に密着した活動を全学で行うべき

- 高松キャンパスでは地域イノベーションセンターを中心に各種の企画を実施：
 - イブニングセミナー(企業技術者と教員交流)
 - 教職員のための地域企業見学会
 - 次世代ものづくり担い手のための基礎技術力養成研修～機械設計コース～
 - 組み込み技術セミナー
 - 技術者向けの各種講習会

2012年1月26日(木)

香川高専平成23年度外部評価委員会説明資料

11

6. 香川高等専門学校の現状と方針

- (1) キャリア教育・就職進学について
- (2) 地域連携・研究協力について
- (3) 国際交流活動について
- (4) 広報活動について

(1) キャリア教育・就職進学について

キャリアサポートセンター長 木原 茂文

就職進学データの概要と、それを達成するための年間スケジュール、支援活動は何をしているかということと、大きな柱であります就職支援及びキャリア教育支援についてご報告させていただきます。

まず2ページは過去2年間及び平成23年度の現5年生の学科毎の状況です。おおよそ半数の学生が就職、半数が専攻科または大学編入しており、現在、大半の学生の進路が決まっています。

次に、年間の活動内容をご紹介します。3ページの就職スケジュールにつきまして、大学とも高校とも異なるというスケジュールになっています。つまり4月1日に企業へのエントリーが開始になり、早い学生は5月の連休明けに内々定をいただき、遅い学生でも6月末には内々定をいただいているのが現状です。10月1日には大学と同じ内定ということになります。就職関係の支援としては、自由応募と推薦の2つがあることを、就活前年の10月か11月に学生に対して周知します。また保護者の方々に対する進路説明会も実施しています。その他、履歴書の書き方や大きなイベントであります企業合同面談会も開催しています。これは後ほど説明いたします。また、インターンシップには力を入れなければならないと2年前に認識して、活動しています。まずインターンシップとはから始まり、企業様での研修を経て、9月、10月の報告会で終わるというスケジュールになっています。最も力を入れなければならないと考えているのはキャリア支援で、香川県労働政策課との連携により、県内企業の方々による出前授業も開催しています。また本校のOBやOGの中には各界で活発に活動している方が居られますので、その方々による出前授業を行ったり、香川県技術士会の方々による出前授業も実施しています。また女子学生対象の講座にも力を入れています。

4ページはキャンパスごとの県内、県外の就職状況です。おおよそ4割程度が県内で、残りが県外という実数です。ただしこれは原則として本社の所在地になっていますから、実際は少し違ってきますし、就職後は当然異動があるのでこの数字とは少し違いますが、概ねこのような状態です。

参考資料と記載しています5～7ページには、実際に企業名を入れさせて頂いておりますので、こういったところに就職しているんだなという目で、後ほどご覧ください。5、6ページが県内企業及び県外企業です。7ページが専攻科についての過去3年間、専攻科については学生数が少ないので3年間の統計データに仕上げています。8ページの専攻科の大学院進学につきましては、学生が行きたいと思う大学院に概ね進学できている状況です。

9ページの就職支援は、企業合同面談会を、今年度は高松キャンパスが2月28日午後、

詫間キャンパスが3月1日午後 to 実施する予定です。各企業様にご協力いただき、学生からの質問に対応いただいたり、或いは特長について企業様からご説明していただくという催しです。会場は体育館で行い、例年約50社の企業様にご協力いただいております。

10 ページのように別な手段での就職支援も行っています。面接にあたって、日頃の状態が少しでも誤解がないように伝えることが出来るように、面接実技研修を行っています。研修内容は、最初にガイダンスで全体の学生を集めての話と、模擬面接です。模擬面接は、学外よりコンサルタントの方に来ていただき、7分間面接とその後のコンサルタントの方との面接会を2日間を実施しています。これには後援会の方にもご協力いただき、いろいろなアドバイスや質問をしていただいています。学生は、模擬面接というどうしても馴れていないので非常に緊張感を持って参加してくれており、一定の成果をあげているのではないかと考えています。

学生への情報提供の手段につきましては、11 ページのように学内限定ですが、ホームページを開設しています。企業様からの求人票や、学校訪問をして頂いた企業様につきましては、面談記録もホームページから閲覧することができるという体制をとっています。

インターンシップにつきましては、12 ページの資料にありますようにインターンシップのための企業合同説明会を産業技術振興会主催、香川県労働政策課共催で午前に開催しています。先ほどの9 ページの企業合同面談会は同じ日の午後に開催しています。インターンシップと表題はつけておりますが、実際企業様の思いとしては、インターンシップだけではなく、就職についても説明したいという思いもあることから、3年生だけでなく、4年生も参加させています。

インターンシップに関する情報提供としましては、13、14 ページのようにホームページに載せています。各企業様からの各学科に対しての応募状況や学科毎のインターンシップ参加情報を掲載しており、学生はそれをもとに、エントリーしたい企業を決めています。このような取組みは2年前から力を入れており、毎年約200名の学生が参加しています。

15 ページのキャリア支援講座は、3年生向けの技術士による出前講座を実施しており、1回あたり6名から10名の技術士の方に来ていただき開催しています。約20分の全体講義の後、技術士の方とのグループ討議を行います。学生の評判もよく、今年も実施しましたが来年も実施する予定です。技術士会の方には非常にお世話になっています。

16 ページの女子学生向けキャリア支援につきましても、本校の女性教員の協力を得て、女性技術者になるための講座や東京・大阪・香川技術士会の女性技術士の方にお越しいただき、講義とグループディスカッションを行ないました。

最後に17 ページに支援の現状と課題についてまとめました。SPIに対する講座、面接実技研修及び履歴書などいろいろな講座を行っていますが、支援活動の中での課題としては、就職活動時の対応能力は、本来なら日々のレポートや実習や課外活動で行ってほしいという思いがあります。このようなハウツー物の講座は、本来の支援の姿ではないという思いが個人的にはございます。

インターンシップについては、99 パーセントの学生から行ってよかったという報告を受けていますが、企業様への負荷が非常に大きいのが現状です。本来ならば、どういう状態でインターンシップをしているかを視察に行かなければならないのですが、200 名以上の学生がインターンシップに行っておりまして、視察はできていないのが現状です。

最後に、学生が社会人としての自覚を持つためにはどうすべきかと言う課題があります。簡単ですがどうもありがとうございました。

キャリア教育・就職進学について

キャリアサポートセンター長
木 原 茂 文

報告内容

1. 進路の統計データ
2. キャリア教育支援等年間スケジュール
3. 就職支援
 - 3.1 就職の統計データ
 - 3.2 就職支援(企業合同面談会,研修,ホームページ)
4. キャリア教育支援
 - 4.1 インターンシップ
 - 4.2 キャリア支援講座
5. 支援の現状と課題

1. 進路統計データ (本科卒業生進路実績)

年度	就職希望者数	求人企業数	就職決定数	進学決定数
H 2 1	129	1004	129	130
H 2 2	142	897	142	147
H 2 3	165	971	161	115

H23年度就職状況一覧(H24年3月卒)

高松キャンパス

学科	就 職			進学 決定数
	求人企業数	希望者数	決定数	
機 械	592	23	23	20
電気情報		12	12	12
制御情報		22	20	15
建設環境		17	17	16

詫間キャンパス

学科	就 職			進学 決定数
	求人企業数	希望者数	決定数	
情報通信	379	25	25	9
電 子		22	22	17
電子制御		28	27	6
情 報		16	15	20

2

2. キャリア教育支援等年間スケジュール

時期	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
就職活動の流れ	企業・職種研究	企業・職種研究	企業・職種研究	企業・職種研究	企業・職種研究	企業・職種研究	企業・職種研究	企業・職種研究	企業・職種研究	企業・職種研究	企業・職種研究	企業・職種研究
企業・職種研究	企業・職種研究	企業・職種研究	企業・職種研究	企業・職種研究	企業・職種研究	企業・職種研究	企業・職種研究	企業・職種研究	企業・職種研究	企業・職種研究	企業・職種研究	企業・職種研究
推薦企業決定	推薦企業決定	推薦企業決定	推薦企業決定	推薦企業決定	推薦企業決定	推薦企業決定	推薦企業決定	推薦企業決定	推薦企業決定	推薦企業決定	推薦企業決定	推薦企業決定
エントリー	エントリー	エントリー	エントリー	エントリー	エントリー	エントリー	エントリー	エントリー	エントリー	エントリー	エントリー	エントリー
内々定	内々定	内々定	内々定	内々定	内々定	内々定	内々定	内々定	内々定	内々定	内々定	内々定
就職	就職ガイダンス ・SPI対策講座 (12月)・保護者対象の進路説明会 ・履歴書書き方講座 (12月、1月)・面接実技ガイダンス (1月)・面接実技研修 ・企業合同面談会ガイダンス (2月、3月) 企業合同面談会											
インターンシップ												
キャリア支援講座												

3

3.1 就職の統計データ (H22年度 県別・地域別状況)

高松キャンパス

本科

県別		地域		県内・県外	
香川	22	四国	22	県内	22
大阪	10	關西	17	県外	37
兵庫	5				
京都	1				
三重	1				
東京	15	關東	17		
神奈川	1				
山梨	1				
愛知	2	中部	2		
長崎	1	九州	1		

専攻科

県別		地域		県内・県外	
香川	4	四国	5	県内	4
徳島	1				
岡山	1	中国	2	県外	14
広島	1				
大阪	2	関西	2		
東京	8	関東	9		
神奈川	1				

注)原則として本社所在地

詫間キャンパス

本科

県別		地域		県内・県外	
香川	29	四国	31	県内	29
愛媛	2				
大阪	14	関西	18	県外	58
兵庫	2				
京都	2				
東京	33	関東	32		
神奈川	1				
愛知	3	中部	4		
静岡	1				
福岡	2	九州	2		

専攻科

県別	地域	県内・県外
香川 6	四国 6	県内 6
大阪 1	関西 3	県外 8
兵庫 2		
東京 4	関東 5	

4

3.1 就職の統計データ (22年度 本科卒業生) 〈参考資料〉

県内企業

高松キャンパス

アオイ電子株式会社	1
青葉工業株式会社	1
扶社日産ボール	1
香川シームレス株式会社	1
香川県	2
国土交通省四国整備局	2
株式会社五星	1
四国化成工業株式会社	1
四国電力株式会社	3
四国ドック株式会社	1
高松帝産株式会社	1
株式会社東洋製作所	2
株式会社トーヨー	1
日東河川工業株式会社	2
三菱電機株式会社受配電システム製作所	1
四電工業株式会社	1

詫間キャンパス

株式会社TNET	1
株式会社オークラブログクツ香川	1
コスモテック株式会社	1
コマツ建機販売株式会社四国カンパニー	1
株式会社ジェイアール四国コミュニケーションウェア	1
四国計測工業株式会社	1
四国電力株式会社	3
四国明治乳業株式会社	1
仲興電機株式会社	2
株式会社タダノエンジニアリング	1
デンソー四国株式会社	1
東邦電機工業株式会社	1
(一財) 阪大微生物病研究会	3
株式会社日立四国ソリューションズ	1
扶桑建設工業株式会社	3
三菱電機株式会社受配電システム製作所	4
株式会社四電工	1
四電ビジネス株式会社	1
自営業	1

5

3.1 就職の統計データ (22年度 本科卒業生) 〈参考資料〉

県外企業

高松キャンパス

株アスコ	1
株石垣	1
e B e s e 株	1
N T T インフラネット株	1
大阪ガス株	1
川崎重工株	1
川重マリンエンジニアリング株	1
川田工業株	1
関西電力株	2
株クリタス	1
特戸グリコ株	1
J F E スチール株	1
株 J P ハイテック	1
住友金属鉱山株	1
ゼニア海洋サービス株	1
総合警備保障株	1
ダイダン株	1
中部電力株	1
東海旅客鉄道株	1
東芝エレベータ株	1
東京電力株	1
東洋工業株	1

株東洋テックス	1
株東リ	1
東燃ゼネラル株	1
日本ミルクコミュニティ株	1
日本モレックス株	1
パナソニックAVCネットワーク社株	1
不二製造株	1
三菱重工株長崎造船所	1
三菱電機コントロールソフトウェア株	1
三菱電機システムサービス株	1
株メイコー	1
ももじろうグループ	1
株菱友システム技術	1
株レクザム	1

詫間キャンパス

NECフィールディング株	1
エヌ・ティ・ティコミュニケーションズ株	1
N T T コムウェア日本	1
大同技研株	1
大紀商事株	3
川田工業株	1
関西電力株	2
三菱電機コミュニケーションシステム株	1
K O D I テクニカルエンジニアリングサービス	4
サントリーホールディングス株	1
山清電子工業株	1
三和電気土木工業株	1
株 C R C システムズ	1
C T C テクノロジー株	1
J F E スチール株西日本製鉄所	1
新興電機株	1
総合警備保障株	1
ダイキン工業株	1
中部電力株	2
通菱テクニカ株	1
電源開発株	1
東京電力株	1
東芝 I T サービス株	1
東芝エレベータ株	1
ドコモ・エンジニアリング関西株	1
西日本旅客鉄道株	1
日本放送協会	1
日本電子株	1
株ビジネスコム	1
富士重工業東京事業所	1
藤田製作所株	1
株富士通エフサス	1
株富士通マーケティング	1
フジボウ愛媛株	1
株ブリッジ・エンジニアリング	1
三木特種製紙株	1
三菱電機システムサービス株	2
三菱電機株短路製作所	1
三菱電機ビルテクノサービス株	1
安川エンジニアリング株	2
株山武	1
ヤマハ発動機株	1
リンテック株	2
和興エンジニアリング株	1

6

3.1 就職の統計データ (最近3年間の専攻科修了生) 〈参考資料〉

高松キャンパス

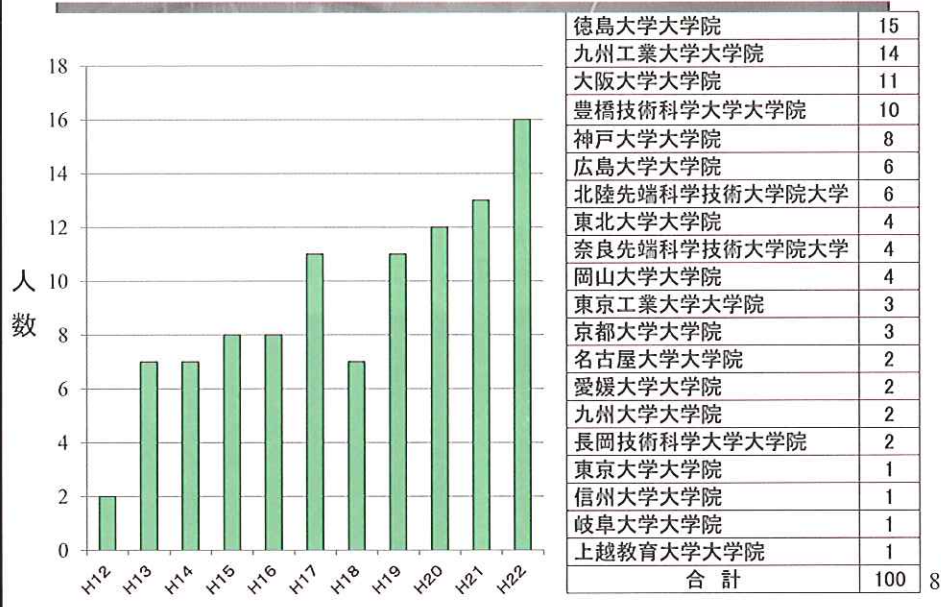
レクザム	4
石垣	3
N T T ネオメイト	2
川崎重工	2
タダノ	2
森精機製作所	2
任天堂	1
四国電力	1
香川県庁	1
岡山市役所	1
日立製作所	1
扶桑建設	1
コスモ石油	1
東洋炭素	1
サントリーホールディングス	1
シャープビジネスコンピュータソフトウェア	1

詫間キャンパス

STNet	3
四国計測工業	3
K O D I テクニカルエンジニアリング	2
サムソン	2
大紀商事	2
J F E 電制	2
東洋炭素	2
阪大微生物病研究会	1
レクザム	1
大塚製薬	1
N T T ネオメイト	1
エクシオ三幸	1
日立工機	1
ヒューテック	1
三菱電機通信機製作所	1
三菱電機受配電システム製作所	1

7

3.1 進学の実績データ (専攻科修了生の大学院進学状況) (参考資料)



8

3.2 就職支援

企業合同面談会

実施日	<22年度>	<23年度>
高松キャンパス	H23年2月25日PM	H24年2月28日PM
詫間キャンパス	H23年3月 2日PM	H24年3月 1日PM



9

3.2 就職支援

面接実技研修

- ・面接ガイダンス
実施日：H23年12月、1月
内 容：全般的な面接の心構え
- ・面接実技研修
実施日：H23年1月 土日の2日間
内 容：模擬面接(7分)とコメント(8分)



ガイダンス

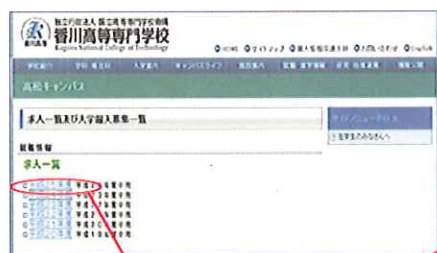


模擬面接

10

3.2 就職支援

求人情報・ホームページ

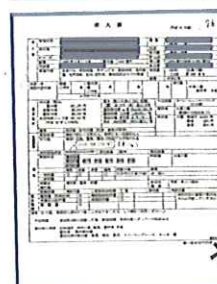


平成23年度求人一覧

求人番号	職種	募集人数	応募資格	給与	勤務地	備考
001	事務	10	高卒以上	180,000円	横浜	
002	事務	5	高卒以上	180,000円	横浜	
003	事務	5	高卒以上	180,000円	横浜	
004	事務	5	高卒以上	180,000円	横浜	
005	事務	5	高卒以上	180,000円	横浜	
006	事務	5	高卒以上	180,000円	横浜	
007	事務	5	高卒以上	180,000円	横浜	
008	事務	5	高卒以上	180,000円	横浜	
009	事務	5	高卒以上	180,000円	横浜	
010	事務	5	高卒以上	180,000円	横浜	



面談記録



求人票

11

4.1 インターンシップ

インターンシップのための企業合同説明会

- ・香川高専産業技術振興会主催，香川県労働政策課共催
- ・対象：3年生

実施日 <22年度> <23年度>
 高松キャンパス H23年2月25日AM H24年2月28日AM
 詫間キャンパス H23年3月 2日AM H24年3月 1日AM



12

4.1 インターンシップ

ホームページ

13

4.2 キャリア支援講座

女子学生向けキャリア支援講座

—あなたの未来は…輝く女性エンジニアになるために—

女性技術者(高専卒業生)の実態(就職・再就職・離職)や業界別取得資格、キャリア形成の実例について講演

実施日: H23年10月13日(木) 14:40～
講 師: 一般教育科(託間)
内田 由里子先生



キャリア集



講義の様子

—技術サロン—

女子学生の疑問、質問に女性技術士が回答

実施日: H24年1月14日(土) 9:00～12:00
講 師: 東京都技術士会 2名
大阪府技術士会 1名
香川県技術士会 1名



講義の様子

自由討議の様子

5. 支援の現状と課題

〈現状〉

・就職支援の展開

ガイダンス, セミナー, 研修, 求人情報の収集と提供

・キャリア教育支援

インターンシップ, 講座

〈課題〉

・就職活動時の対応能力

本来、日々の活動(実験, 実習, 演習, レポート, 課外活動等)で備えることが理想

・インターンシップ

企業との連携

・自覚

(2) 地域連携・研究協力について

地域人材開発本部副本部長（副校長） 高木 正夫

地域連携・研究協力について説明をさせていただきます。

地域連携・研究協力を行う組織は、1 ページの香川高専地域人材開発本部というところが行っています。地域人材開発本部の下には高松キャンパスに地域イノベーションセンター、詫間キャンパスにはみらい技術共同教育センターを設けています。地域イノベーションセンターの下にさらに、企画調整室、人材育成推進室、研究開発室、知的財産管理室を設けています。みらい技術共同教育センターの方は企画調整部門と地域交流部門に大きく分け、企画調整部門の下に人材育成推進室、研究開発室、知的財産管理室、地域交流部門の方にはみらい技術教育プロジェクトと、ネオクラスター創出プロジェクトの 2 つのプロジェクトを設けています。

また、香川高専を支援していただく地元企業を中心とした香川高専産業技術振興会と連携し、ご支援をいただきながら、地域の活性化の活動に取り組んでいます。

2 ページの地域イノベーションセンターの主な活動ですが、1 つは香川高専産業技術振興会との連携です。企業見学会、外部講師による講演会の開催、技術相談、共同研究、受託研究に精力的に取り組んでいます。

イブニングセミナーの実施、次世代ものづくり担い手のための基礎技術力養成研修の実施、各種講習会の開催の形で地元の企業の方たちと会を持ち、人のネットワークづくりに励んでいます。こういう研修会を通して、ご支援をさせていただいています。また理科学支援としてサイエンスフェスタを行なっています。知財教育は本校でパテントコンテストを開催しております。

3 ページのみらい技術共同教育センターの活動ですが、まず 1 つは、学生の創造性教育です。これは文部科学省の教育 GP に採択され、その一環として行っています。2 つ目は理科学習の活動で、みとよ青少年少女発明クラブ、ドリームランドが活動しています。3 つ目は地域連携ですが、香川銀行と三豊市との連携活動になります。4 つ目は産学間連携ですが、これは次世代ものづくり担い手のための基礎技術力養成研修の実施、或いは三豊市の企業との共同研究、特許出願、新商品の開発などに取り組んでいます。今年度、㈱ヒューテックにおいて FPGA 専門教育の出前講座を催しています。それから、全国的なイベントへの出展にも取り組んでいます。

4 ページの技術相談ですが、件数は平成 21 年が 34 件、22 年が 28 件、今年度は 1 月現在ですが 18 件となっています。共同研究の件数は 21 年、22 年、23 年と 18 件から 25 件へと少し件数は増えていますが、受け入れ金額の方は逆に減っています。受託研究は 21 年から始まったものですが、去年は少し件数が下がり、今年は少し持ち直していますが、やはり受け入れ金額の方は減少傾向にあります。受託事業は 1 件から 2 件というところ

ころです。

5 ページの企業人対象の講座ですが、1 つは組み込み技術セミナー、それから FPGA 専門教育の出前講義、次世代ものづくり担い手のための基礎技術力養成研修の実施、地域イノベーションセンターの方で機械設計コース、みらい技術共同教育センターの方で電子技術コースを実施しました。それから信号処理研究会を行っています。

6 ページの香川高専産業技術振興会との連携ですが、振興会は会員数が法人会員 107 社で、個人会員 10 名、特別会員 1 機関となっています。主な活動は香川発大学高専連携シーズ発表会の後援をいただいております。それから外部講師による特別講演を年に 2 回開催しています。それからイブニングセミナー、研究交流会を開催し、企業の方と本校の教職員が交流を持っています。教職員の会員企業訪問見学会を年 2 回実施しています。

7 ページですが、会報も年 2 回発行し、会員企業への出前講座、学生のインターンシップの受け入れ、インターンシップ企業合同説明会の開催、発明コンテストへの援助をいただいております。

8 ページはイブニングセミナーの実施場面です。

9 ページは高松キャンパスで 8 月 2 日～9 日に行なわれた次世代ものづくり担い手のための基礎技術力養成研修の機械設計コースの受講風景です。

10 ページは、同じく詫間キャンパスで 8 月 1 日～9 日まで行なわれた電子技術コースです。

11 ページは高松キャンパスのサイエンスフェスタにおいて、実験を実施して中学生や保護者に説明しているところです。

12 ページのように、高松市との連携においては理科学教育支援などを行なっています。高松市生涯学習センターで孫と祖父母の算数教室などを開催したり、サイエンス教室、ロボット教室なども開催しています。共同研究としては、公共交通ネットワークのあり方に関する調査研究を行なっています。

13 ページは詫間キャンパスにおけるみとよ青少年発明クラブの風景です。8 月 6 日に行なわれた「発明くふう展の作品づくり」と、「チャレコン創作指導会」の様態を写したものです。

14 ページは同じくイベントチーム ドリームランドの活動で、11 月 10 日に丸亀市立飯山南小学校で行なわれた「手回し発電機で動かすロボット障害物競走」で、手回し発電機で動くロボットを作り、二人が協力してロボットを進めて行く競技をするものです。

15 ページでは 7 月 29 日～31 日に国立科学博物館主催事業である 2011 夏休みサイエンススクエアに参加しました。これは国立科学博物館で行なわれ、本校からは「簡単ハンダ付けでゲーム機をつくって遊ぼう」というテーマで参加しました。プリント配線基板に IC の足をハンダ付けしてゲーム機を作り、出来たゲーム機を使って遊んで楽しむというものです。

16 ページは三豊市介護予防対策「脳キラリ教室」というもので、Wii で「太鼓の達人」

を楽しんだり、PS3 で車の運転をしたり、積み方や構造を考えながらカブラを高く積み上げたりして、お年寄りの方の脳の活性化を行うという取り組みです。

17 ページは仁尾町八朔人形まつりに出展協力した作品です。動く八朔人形を作っていたきたいという仁尾町からの要望により、動くカメに浦島太郎が乗り、竜宮城から出てくるような動く仕組みを浦島太郎やさるかに合戦の各 4 画面ほどを作り、物語を展開していくというものです。

18 ページは、香川銀行、三豊市との連携事業で、10 月 22～23 日に J R 有楽町駅前の東京交通会館前 1 階ピロティで徳島・香川トモニ市場 1 周年記念マルシェにおいて、三豊市の物産展を開催し、三豊市職員の方と一緒に三豊市特産のお茶の接待を行いしました。

19 ページは、11 月 26～27 日に三豊市、栗島、詫間キャンパスが参加協力して池袋サンシャインシティで行なわれたアイランダー2011 です。各地のいろんな島々が集りイベントを行なったのですが、盛況だったと聞いています。

20 ページの本校第 2 回発明コンテストにおいては 44 名の応募があり、内 5 名が受賞しました。そのうち優秀賞の学生が、知的財産アドバイザーの指導で、実用新案件の出願に取り組んでいます。

また、全国パテントコンテストに 2 件応募し、全国からの応募総数が 73 件ありましたが、出展した 1 件が特許出願支援対象に選抜されました。

21 ページは、11 月 3～6 日にパシフィコ横浜で行なわれた 2011 楽器フェアに三豊市の中小企業振興基金補助金制度で共同研究開発をしたティンパニーチューニングアダプタを出展しました。

22 ページは、9 月 21～22 日に東京国際フォーラムで行なわれた大学見本市イノベーション展 2011 に「高感度呼吸センサーによる行動モニター」を出展しました。

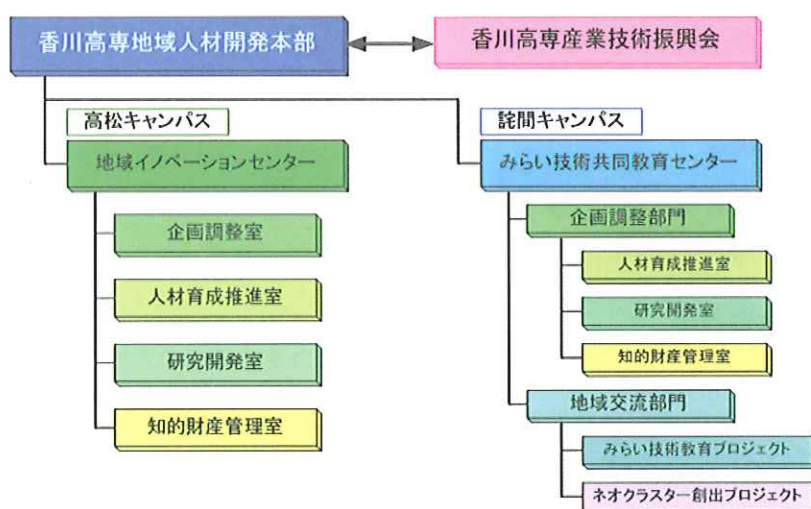
23 ページは、12 月 7～9 日に千葉幕張メッセで行なわれたセミコンジャパン 2011 に同じく「高感度呼吸センサーを用いた行動モニター」と、もう 1 点、「近赤外光を用いた無散瞳眼底カメラ」を出展しました。

以上で説明を終わらせていただきます。

地域連携・研究協力について

副校長 高木正夫

地域人材開発本部の組織



地域イノベーションセンターの活動

- 香川高専産業技術振興会との連携
 - 企業見学会
 - 講演会の開催
- 技術相談
- 共同研究, 受託研究
- イブニングセミナーの実施
- 次世代ものづくり担い手のための基礎技術力養成研修の実施
- 各種講習会の開催
- 理科学支援 → サイエンスフェスタ
- 知財教育 → 発明コンテスト

2

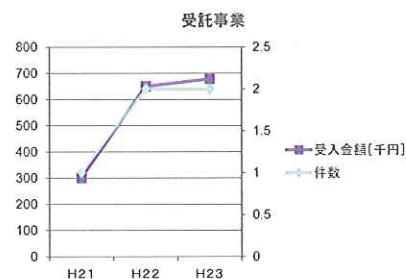
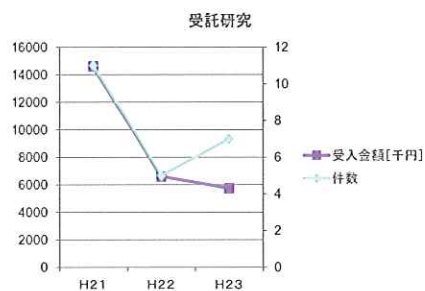
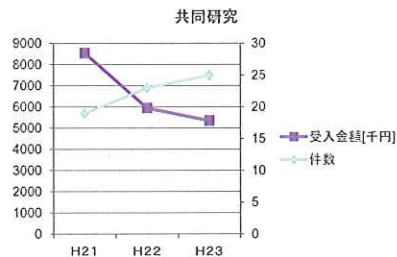
みらい技術共同教育センターの活動

1. 学生の創造性教育(教育GP:下記の活動, 知財)
2. 理科学支援
 - 三豊少年少女発明クラブ(20回)
 - ドリームランドの活動(15回)
3. 地域連携
 - 香川銀行・三豊市との連携
 - 徳島・香川トモニ市場一周年記念マルシェ
 - 三豊市との連携
 - アイランダー2011
 - 脳きり教室～Wiiを使った高齢者対策～
4. 産学官連携
 - 次世代ものづくり担い手のための基礎技術力養成研修の実施
 - 三豊市の補助金, 企業との共同研究, 特許出願, 新商品の開発
 - 出前講座:FPGA専門教育
5. イベントへの出展
 - イノベーションジャパン2011
 - セミコンジャパン2011

3

技術相談、共同研究、受託研究、受託事業

技術相談	件数
H21	34
H22	28
H23	18



注) 平成23年度のデータは1月現在

4

企業人対象講座

- 組み込み技術セミナー
- 出前講義:FPGA専門教育
- 次世代ものづくり担い手のための基礎技術力養成研修の実施
 - － 機械設計コース
 - － 電子技術コース
- 信号処理研究会

5

香川高専産業技術振興会との連携

- 平成21年8月28日 高松高専産業技術振興会として発足した
- 平成21年10月1日 高松・詫間両校の高度化再編に合わせて香川高等専門学校産業技術振興会となった
- 会員数 法人会員107社、個人会員10名、特別会員1機関(平成24年1月10日現在)
- 主な活動内容
 - シーズ発表会の後援等(香川発大学・高専連携シーズ発表会等)
 - 講演会等の開催(年2回)
 - イブニングセミナー又は研究交流会の開催
 - 教職員の会員企業訪問見学会(年2回)

6

香川高専産業技術振興会との連携

- 会報の発行(年2回)
- 会員企業への出前講座
- 学生のインターンシップの受け入れ
- インターンシップ企業合同説明会の開催(香川高専、香川県との連携)
- 発明コンテストの補助(産業技術振興会長賞(技術賞)授与)



会員企業訪問見学会

講演会

インターンシップ企業合同説明会

7

イブニングセミナー

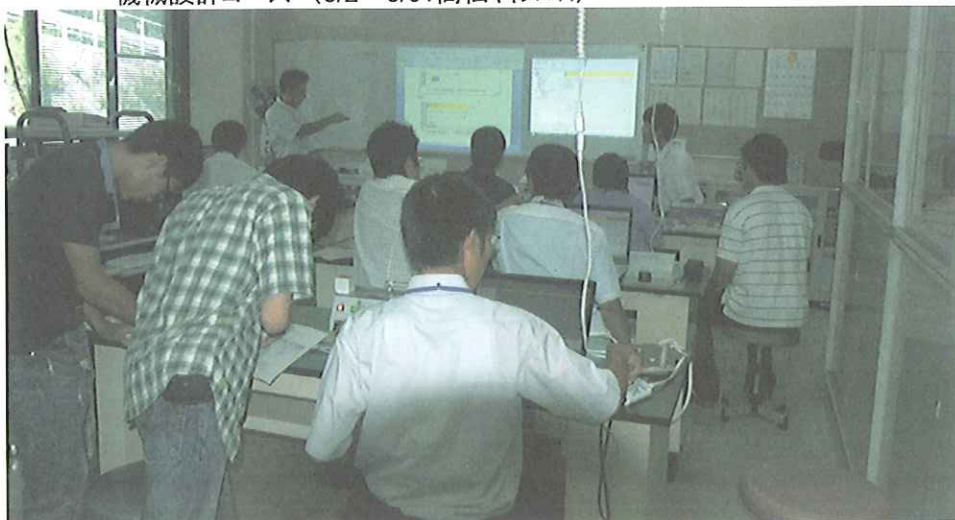
- H22年度7回, H23年度5回(H24年1月現在)



8

基礎技術力養成研修の実施

- 次世代ものづくり担い手のための基礎技術力養成研修
- 機械設計コース (8/2~8/9:高松キャンパス)



9

基礎技術力養成研修の実施

- ・「次世代ものづくり担い手のための基礎技術力養成研修」
 - － 電子技術コース（8/1～8/9：詫間キャンパス）



C言語プログラミング講義



マインドストームNXTを使ったC言語の「デモン」実習



PICによる制御プログラミング実習



修了式 お疲れ様でした

10

サイエンスフェスタ ～見て・作って・おもしろ科学～



公開実験風景(高松キャンパス)

11

高松市との連携(理科学教育支援など)

- ・ 高松市生涯学習センター(まなびCAN)での公開講座の開催(孫と祖父母の算数教室など)
- ・ サイエンス教室・ロボット教室の開催(高松市南新町商店街、高松市内の小学校)
- ・ 共同研究(1件:公共交通ネットワークのあり方に関する調査研究)



算数教室

サイエンス教室

ロボット教室

12

三豊少年少女発明クラブ

- ・ 「発明くふう展作品作り②」・「チャレコン創作指導会」
- ・ 8月6日(土)



- ・ 詫間キャンパス
- ・ みらい技術共同教育センター



「発明くふう展作品づくり」…友達、親子で相談しながら作品作りに励みました

- ・ 学生のアドバイス
- ・ 友達同士、親子で相談
- ・ 作品作り



「チャレンジ創造コンテスト創作指導会」…発明指導員と一緒に調整が進んでいます

13

ドリームランドの活動

- 11月10日(木)丸亀市立飯山南小学校 4年生93人を対象
- 「ペアで2人4腕一手回し発電機で動かすロボット障害物競走」のイベント活動を開催



14

「2011夏休みサンエンススクエア」

- 独立行政法人国立科学博物館主催事業に協力
- 7月29日(金)～7月31日(日) (国立科学博物館)
- ～簡単ハンダ付で、ゲーム機をつかって遊ぼう～



15

三豊市介護予防対策「脳きりり教室」

・市内全7町で実施(6月～7月)



Wiiで「太鼓の達人」を楽しんでいます。



PS3で車の運転をしています。



カプラをどれだけ高く積み上げられるか？積み方や構造を考えて集中して積んでいます。 16

第14回仁尾八朔人形まつり

- ・ 9月23日(金)～9月25日(日)
- ・ 三豊市仁尾町内で開催の八朔人形まつりに協力



浦島太郎



さるかにかっせん

「徳島・香川トモニ市場一周年記念マルシェ」

- 香川銀行, 三豊市との連携事業
- 10月22日(土)~23日(日) 13時~17時
- JR有楽町駅前東京交通会館前 1階ピロティ
- お茶サービスロボット「みっちゃん・とよさん」 三豊市高瀬町の冷茶をお接待



18

アイランダー2011

・三豊市・粟島・詫間キャンパスが協力して参加 (11/26~11/27: 池袋サンシャインシティ)



日本各地の島々が集まったイベントはたくさんの方々に賑わっていました



19

発明コンテスト

- 優秀賞が知的財産アドバイザーの指導下で実用新案権出願
- パテントコンテスト:応募総数73件, 特許出願支援対象者に選抜



20

2011楽器フェア

- 11月3日(木)～11月6日(日) (パシフィコ横浜)
- 三豊市の中小企業振興基金補助金制度で共同研究開発したティンパニーチューニングアダプタを出品



21

イノベーションジャパン2011に出展

「高感度呼吸センサーによる行動モニター」を出展

9月21日(水)～22日(木) (東京国際フォーラム)

- 呼吸、心拍、体動
を同時に測定
- 高齢者や大量輸送
機関の運転手など
- 行動をモニターする
基礎技術
- 展示・説明・実演

イノベーション・ジャパン2011 - 大学見本市



多くの方々に興味を示して頂けました。ありがとうございました。



22

セミコンジャパン2011

- 12月7日(水)～9日(金) (千葉県幕張メッセ)
- 国内外から技術と情報が集結する世界最大の半導体製造装置・
材料の国際展示会
- 詫間キャンパスからセミコン・ジャパン2011学生企画・SEMI協力
プログラムとして行われている「The高専@セミコン」に出展
- 高感度呼吸センサーを用いた行動モニター
- 近赤外光を用いた無散瞳眼底カメラ



23

(3) 国際交流活動について

国際交流室長 小竹 望

最初のページは、本日も報告させていただく内容、項目をあげさせていただきました。

現在、国際エンジニア育成プロジェクトの枠組みの中で実施しています学術交流協定に基づく国際交流活動、国際シンポジウム等の開催、学生の国際交流・海外派遣、留学生の受入れ、実務英語教育について報告させていただき、最後に今後の活動方針、検討課題についてまとめて報告させていただきます。

まず 2 ページの国際エンジニア育成プロジェクト ―実践的技術者教育と英語教育の連携システムの構築― について、報告させていただきます。これは高専機構が実施している高専改革推進事業プロジェクトの高専モデル事業として採択されたもので、平成 22、23 年度の 2 ヶ年のプロジェクトとして国際交流室において企画し、実施しています。

内容は、国際学術交流によって教育機会を創出し、実践的技術者教育と実践英語教育を連携させた教育システムを構築すること。さらに海外インターンシップ、国際意識向上セミナーなどのキャリア教育を連携させることにより、グローバルな視野を身につけた国際エンジニアを育成するという教育プロジェクトです。

プロジェクト終了後の来年度以降も、引き続き基本活動方針として継続していきたいと考えています。

その中身は 3 つのプログラムで構成されています。1 つ目はグローバル・キャリア教育推進プログラム、2 つ目は国際学術交流推進プログラム、3 つ目は実務英語教育推進プログラムです。これらを相互に関連させ、効果を出していこうというものです。

3 ページはポスターとして作成したのですが、グローバル・キャリア教育、国際学術交流、実務英語教育を連携させていくというプログラムです。

4 ページの学術交流協定においては、包括的学術交流協定として海外の大学と学生交流、教員の交流、情報交換、共同研究の推進などの MOU を締結しました。香川高専になってから交流協定を結んだ大学は正修科技大学、ソウル大学、マラ工科大学で、今後さらに交流協定を拡大していく方針で進めています。

5 ページの学術交流活動におきましては、国際シンポジウムなどの開催により、海外の教育機関との学術交流を推進していくものです。最近の学術交流実績は、協定校の正修科技大学との国際交流ワークショップと、本校主催で実施しました国際シンポジウム ITSS2010 と国際シンポジウム GEE2011、協定校の東洋未来大学との国際交流ワークショップです。このように教育研究活動をシンポジウムにおいて国際化していくとともに、学生が国際的な場で活動できる機会をつくりだしていくことを進めています。

6 ページは 1 つの紹介ですが、環境地盤工学に関する国際シンポジウムを昨年 5 月に本校で開催しました。共催校とともに開催したのですが、世界 10 カ国から 60 名の参加

があり、30 件の論文発表を行いました。

7 ページは学生の国際交流、海外派遣をとりまとめたものですが、協定校との学生の交流として受入れや派遣などを実施しています。また学生が参加できる国際シンポジウムを企画し、学生を参加させています。海外インターンシップについては、キャリア教育の一環ではありますが、高専機構が主催する海外インターンシップなどへの派遣について支援を行うものです。さらには協定校、或いは現地企業への海外派遣についても検討しています。

8 ページは本校の留学生についてですが、留学生の支援として地域社会との交流を推進すること、わが国の歴史・文化・社会に触れる機会を設けるという目的に沿い、留学生の関連行事として見学旅行などを毎年開催しています。また、地域での活動も支援しています。本校の留学生は国費、文科省の国費留学生、或いはマレーシア政府派遣の留学生です。彼らは 1 年間の日本語教育を受けてから、本校の 3 年生に編入しています。出身はアジア諸国で、現在 15 名の留学生がいます。国費或いは政府派遣だけではなく、私費留学生にも門戸を開放するために現在受け入れ体制について検討しています。

9 ページは今年度新しく短期留学生を受け入れたもので、協定校のマレーシアのマラ工科大学土木工学科から本校の専攻科に特別聴講学生として 2 名受け入れ、4 カ月間留学生として滞在したものです。

学生のプログラムの主たるところは、四電技術コンサルタント様に協力していただき、インターンシップを実施しました。また、本校の建設環境工学科での特別研究を実施したというものです。

10 ページは国際理解セミナーの形で、学生の国際理解が進められるようにという目的で、JICA で実際に国際交流活動に携わった方の経験を話していただき、国際性とは何か、国際交流とは何かについて、経験に基づいた話を学生にさせていただきました。

11 ページの実務英語教育についての取り組み方針は、英語嫌いの学生のモチベーションを向上させるために、学生に興味をもってもらおうということで、英語科の先生方が努力されています。iPad を利用した教材や英語ラウンジの設置によるプレゼンテーションの練習、TOIEC などの外部試験の実施、それから平易な英語をたくさん読む多読など、学生のモチベーション向上を狙ったものです。そして、技術教育との関連を強めることを心掛けて進めています。

12 ページの今後の活動方針と検討課題については、国際エンジニア育成プロジェクトの基本方針に沿った形で活動していきたいと考えています。

それにあたっては、本事業がスタートアップですので、自己評価としてアンケートなどで事業を評価することを考えています。活動の継続性について課題を挙げますと、国際性向上という中でどのように目標設定をすればよいのか。海外との関連については非常に費用がかかるものが多くあり、費用対効果をどのように考えていくか。それを計画するために教職員のさらなる国際性向上が必要になると自覚しています。

これらの活動をさらに発展させるために、本校だけの活動ではなく、四国地区高専との

連携や高専機構全体としての事業展開などについても検討していかなければならないと思っています。

また、企業の理解と協力を得なければならないことです。海外からのインターンシップ学生を受け入れたり、或いは本校の学生を海外インターンシップに派遣するときには日本の企業の現地事務所、事業所などに派遣していくというのが考えられる形です。それらを実現するために、地域連携或いは学校と地域企業との協働教育の面から、企業様のご理解並びにご協力をいただけると非常に助かります。

以上で報告を終わらせていただきます。



平成23年度外部評価委員会資料

国際交流活動について

国際交流室長

小竹 望

平成24年1月26日 香川高専外部評価委員会

報告概要

★「国際エンジニア育成プロジェクト」活動状況

- 学術交流協定に基づく国際交流活動
- 国際シンポジウム等の開催
- 学生の国際交流・海外派遣
- 留学生の受入れ
- 実務英語教育

★今後の活動方針、検討課題

国際エンジニア育成プロジェクト —実践的技術者教育と英語教育の連携システムの構築—

高専モデル事業として採択、 期間:平成22～23年度 担当:国際交流室
【概要】

国際学術交流によって教育機会を創出し、実践的技術者教育と実務英語教育を連携させた教育システムを構築する。

さらに海外インターンシップ、国際意識向上セミナーなどのキャリア教育を連携させることによりグローバルな視野を身につけた国際エンジニアを育成する。

スタートアップ事業 ⇒ 今後の基本活動方針

3つの互いに密接に関係するプログラム

①グローバル・キャリア教育推進プログラム

海外インターンシップ派遣先の開拓、地域人材を活用する国際意識向上セミナーの開催など

②国際学術交流推進プログラム

国際学術交流の推進、国際的技術教育の機会創出

③実務英語教育推進プログラム

英語プレゼンテーション指導などを通じ、国際エンジニアとして必要な英会話を身につける



学術交流協定

包括的学術交流協定 (MOU)

- a) 学生の交流
- b) 教員の交流
- c) 学術資料・刊行物及び情報の交換
- d) 共同研究の推進

海外の教育研究機関と学術交流協定締結

- 東洋未来大学 Dong Yang Mirae University (韓国) 詫間C 2005年8月～
(更新 2011年7月～)
 - ダナン工科大学 (ベトナム)
The University of Da Nang, University of Technology 高松C 2009年6月～
 - 正修科技大学(台湾) Cheng Shiu University 2009年12月～
 - ソウル大学工学部 (韓国)
Seoul National University, College of Engineering 2010年 6月～
 - マラ工科大学 (マレーシア) Universiti Teknologi MARA 2010年 8月～
- ⇒ さらに拡大していく方針

学術交流活動(国際シンポジウム等の主催)

国際シンポジウム等の開催により海外の教育機関との学術交流を推進

- 国際交流ワークショップ 共催: 正修科技大学 2009年12月
"2009 Kagawa National College of Technology-Cheng Shiu University Joint Seminar on Science Technology"
 - 国際シンポジウム ITSS2010 主催: 香川高専 2010年7月
"International Symposium on Innovative Technology towards Sustainable Society"
持続可能な社会に向けた革新的技術に関する国際シンポジウム
 - 国際シンポジウム GEE2011 主催: 香川高専ほか 2011年5月
"Geo-Environmental Engineering 2011"
環境地盤工学に関する国際シンポジウム
 - 国際交流ワークショップ 共催: 東洋未来大学 2011年7月
The 3rd International Joint Workshop on Technology in Education and Educational Research
- ⇒ 教育研究活動の国際化、学生の機会を創出

環境地盤工学に関する国際シンポジウム Geo-Environmental Engineering 2011 (GEE2011) の開催

2011年5月21～22日、香川高等専門学校高松キャンパスにおいて「環境地盤工学に関する国際シンポジウムGeo-Environmental Engineering 2011 (GEE2011)」を開催しました。本シンポジウムは、地盤環境工学や地盤工学分野におけるジオシンセイクスの利用に関する最新の研究成果の発表と研究者の交流を目的としており、2001年から日本・韓国・フランス・カナダを中心とした国際シンポジウムとして発展しました。今回が第10回の記念開催になり、香川高等専門学校、京都大学大学院地球環境学堂、ソウル国立大学(韓国)、ジョセフ・フーリエ大学(フランス)、プリティッシュ・コロンビア大学(カナダ)の共催で開催されました。

東日本大震災の影響と福島第一原発の放射能汚染により国内外からの参加者が激減しましたが、世界10ヶ国から約60名の参加者がありました。実行委員長である嘉門雅史校長の開会講演においては、東日本大震災で亡くなられた2万人を超える犠牲者に参加者一同が黙祷を捧げました。これに続き、環境地盤工学を中心とする汚染土壌の修復、廃棄物処分場、ジオシンセイクス、廃棄物の再利用と地盤改良などのテーマに関する30編の論文発表が行われました。また、シンポジウム2日目のテクニカルツアーでは参加者36名が豊島に渡り、不法投棄された廃棄物の処分事業を見学しました。

(本校HPTビックスより)



6

学生の国際交流・海外派遣

協定校との学生交流(受入れと派遣)

- ・正修科技大学 2010年7月 国際シンポジウムITSS2010(本校開催) 学生受入れ
2011年3月 国際学術交流研究発表会(於台湾) 学生派遣
- ・東洋未来大学 2006年から 年ごとに交代で学生派遣
2010年10月 韓国電子展(KES2010)に本校学生が作品を出展
2011年7月 訪問団来校
- ・マラ工科大学 2011年3月 交流協議 学生同行
2011年7月～10月 特別聴講学生の受入れ

国際シンポジウムへの派遣

- ・ASET17(エコテクノロジーに関する国際シンポジウム)、学生7名、2010年11月、於富山
- ・日台青少年シンポジウム 学生4名、2011年12月、於台北
- ・ISTS2012 学生2名、2012年1月、於バンコク

海外インターンシップ(キャリア教育)

- 高専機構: 日本企業の海外事業所におけるインターンシップ(3週間)
2008年度 1名フィリピン、2009年度 2名タイ、2011年度2名(予定)
- JODC(財団法人海外貿易開発協会)(1ヵ月間)
2010年1名フィリピン、2011年度1名中国

⇒協定校ならびに現地企業への海外インターンシップ派遣について検討

7

本校の留学生

- ・留学生と日本人学生、留学生と地域社会との交流の推進を図る。
- ・留学生が我が国の歴史・文化・社会に触れる機会を設定する。

留学生関係行事(毎年開催)

- ① 四国地区高等専門学校外国人留学生交流活動
四国地区5高専の留学生が文化的活動により日本に対する知識・教養を深め、また留学生相互の親睦を深めることを目的としている。
- ② 留学生見学旅行(本校行事、両キャンパス合同)
留学生が母国で経験できないことを体験することにより日本文化に対する理解を深め、両キャンパスの留学生と一般学生との交流を深めることを目的とする。
- ③ 留学生交流会(本校行事、H23年度から年2回、各キャンパスで開催)
地域の国際交流団体ならびに自治体の国際関係担当者を招き、本校の留学生を囲んで、教職員と学生が集う。

留学生の地域活動(国際交流団体等の主催)

各種イベントへの参加

現状: 国費留学生 & マレーシア政府派遣留学生、1年間の日本語教育を経て3学年に編入

(現在15名、アジア諸国の出身)

私費留学生 ⇒ 受入れ体制等を検討中

8

協定校からの短期留学生受入れ

マラエ科大学土木工学科から本校専攻科特別聴講学生 2名 2011年7~10月

平成23年11月7日、高松キャンパスで国際学生交流プログラムの修了式を挙行了しました。本校と学術交流協定を締結しているマラエ科大学(マレーシア)との学生交流の一環で、本年7月から10月の4ヶ月間、特別聴講学生として2名の留学生を受け入れました。

プログラム参加学生は、(株)四電技術コンサルタントでインターンシップを体験するとともに建設環境工学科での環境工学と地盤工学に関連した調査研究や日本語学習などに取り組みました。プログラム修了式では、嘉門雅史校長から2名の留学生に対して修了証書を授与するとともに、積極的な取組姿勢を称える言葉が贈られました。

(本校HPTピックスより)



プログラムの修了式



インターンシップ体験



学生交流

9

国際理解セミナー

平成23年1月28日に高松キャンパス イノベーションホールにおいて『海外の現場をふりかえって～技術者としての可能性～』と題して国際理解セミナーを開催しました。これは、本校が取り組んでいる国際エンジニア育成プロジェクトの一環として、講師に国際協力機構(JICA)四国支部から片山裕之氏と山下理香氏を招いて、詫間キャンパスに続いて2回目を高松キャンパスで実施したものです。

講演では、前半に世界の現状や国際協力について紹介しながら、なぜ国際協力が必要なのかについて紹介を行い、後半にはインドネシアで開発途上国との国際協力活動に取り組んだ経験をもとにした、異文化体験、技術移転、社会問題、環境問題などのグローバルな知識や考え方を紹介されました。参加者は、講演とその後のディスカッションを通じて、国際協力の在り方、海外での事業展開する際の留意点、国際化社会を生きる際の心構え等について見地を深めました。(本校HPTピックスより)



10

実務英語教育

重点取り組み事項

- ・専門学科と連携し、かつ学生が主体となってiPadを利用した専門科目を題材とした英語学習教材の開発を行う。
- ・現行の「英語ラウンジ」を拡大実施し、プレゼンテーションや発音指導の場とする。
- ・TOEIC、工業英検等の外部試験を規模を拡大して実施し、学生の英語力の伸長度を測る。
- ・多読図書を充実させ、英語嫌いの学生のモチベーションを向上させ、自学自習する契機と基盤を作る。

- ・教職員と専攻科生を対象にしたネイティブスピーカーによる英語発表指導 Intensive Course in Academic Presentation (2010年5～6月)
- ・海外教育機関からの招聘講師による専門科目の英語での講義 (建設環境工学科 2010年12月、機械工学科2011年1月、電気情報工学科 2011年9月)
- ・英語合宿の開催(2011年10月)
- ・スピーチコンテスト、プレゼンテーションコンテストの参加支援と学生研修 (2011年1月、2012年1月於東京)



11

今後の活動方針と検討課題

「国際エンジニア育成プロジェクト」の基本方針に沿った国際交流活動を継続していく。

- スタートアップ事業の評価

自己評価: 参加者アンケート、英語試験のスコア、感想文

- 活動の継続性

目標設定のあり方、費用対効果

教職員のさらなる国際性向上

- 活動の効率化

四国地区高専の連携、高専機構の事業化などの検討

- 企業の理解と協力（地域連携、協働教育の面から）

海外からのインターンシップ学生の受入れ

本校学生の海外インターンシップ派遣先(例えば、現地事業所)

(4) 広報活動について

総務・広報室長 田嶋 眞一

広報活動についてですが、基本的にはどういう情報が本校にあるかということです。去年の提言にもありましたように、地域に対していかに広報活動を活性化していくかということで、1ページにありますように公開講座やイベント、理科教育支援など、いろいろなことを行っています。イベント、理科教育支援は、基本的には各地域のコミュニティセンターで企画していただくということで、コミュニティセンター主催で、本校が協力するという形になるので、広報としては自治体の広報誌などにも載せていただいているという状況です。

経済・産業の高度化ということで、本校や各種団体主催の技術講習会もいくつかありますが、団体主催のものは団体の方から広報していただくということになります。

先ほども報告にありました地域連携、シーズ発表会、産業技術振興会との関係を通して、いかに広報していくかということです。

もう1つは、実際の学校の活動ということで、学生や保護者に対する緊急連絡や行事予定などについては、ホームページ及び最近導入したメール通知システムを併用するようにしています。

2ページの広報の媒体としては、いろいろなものがありますが、「文教速報」、「文教ニュース」など、教育機関では比較的良好に使われている媒体と自治体広報、本校ホームページ、お知らせ、トピックスなどです。以前から行っていた記者クラブへの投げ込みを、今年は総務・広報室として制度化しました。保護者及び学生へは、「香川高専だより」を年3回発行しています。先ほどの国際交流の報告と同様に、平成22、23年度高専改革推進のプロジェクトでICTオープンキャンパスというシステムを構築し、運用を開始している状況です。

3ページの「文教速報」では、全国の文教関係に携わる読者に最新の情報を届けるということで、12月までに32件投稿して、全件掲載していただきました。

4ページの「文教ニュース」では、文部科学情報ということで発行していますが、12月までに32件投稿して、3分の1の11件を掲載いただいているという状況です。

5ページの本校のホームページでは、お知らせ&トピックスを利用して掲載しています。お知らせには、主に告知や募集を掲載し、12月末で平成23年度分として74件の記事が載っています。トピックスには、主に実施報告を掲載し、12月末で平成23年度分として、252件の記事が載っています。

6ページの記者クラブへの投げ込みの制度化に合わせて様式も統一しました。担当者が常駐しているなどの条件を加味して、高松キャンパスでは主として香川県教育記者クラブに、詫間キャンパスでは主として観音寺市役所記者クラブに情報提供している状況です。

この制度は6月後半ぐらいに作ったのですが、7ページにありますように7月以降香川県教育記者クラブ、観音寺市役所記者クラブにそれぞれ5件ずつ投げ込んでいます。

8ページにあるように本校の学生、保護者向けの広報誌として「香川高専だより」というのを発行しています。平成21年10月に香川高専が統合して、それ以前の「詫間だより」、「高松高専だより」というものを、「詫間キャンパスだより」、「高松キャンパスだより」と名称変更して、昨年度まで5回発行しました。今年度から「香川高専だより」に統一して、6月、10月に発行し、3月はこれから発行の予定です。

9ページの本校のホームページにあるICTオープンキャンパスですが、これに関しては双方向の情報発信による戦略的な広報と情報収集活動を目標として、いろいろな団体とうまく情報交換を行っていきたいと考えます。

ICTオープンキャンパスの一番大きな課題は、いかに迅速に効率よく本校の情報をお伝えし、或いはご要望をお聞きするかです。例えば産業技術振興会との情報交換や、どのようなセミナーが望ましいかなどを含めて進めていきたいと考えています。

もう1つは、中学校に対してどのようにアピールしていくか。或いは中学校からの要望等々をどう吸い上げていくかです。このことは、ICTオープンキャンパスをうまく機能させることができれば、解決できると考えています。

現在のICTオープンキャンパスは、10ページのようなページになっています。新着情報欄にはそれぞれのクラブが出した新着情報が載っています。1月17日現在で新着情報が約500件載っています。クラブと称するのは、例えばそれぞれの教員の研究室レベルのクラブや卒業生のクラブ、学生の課外活動としてのクラブなどがたくさん載っています。現在は79のクラブが活動しており、それぞれに投稿した記事が載っているという状況です。

11ページの在校生や保護者向けのものは緊急連絡ということで、例えば台風や天候不順などのときに緊急情報を載せています。またメール通知システム『そくせん』を使って教職員から通知のメールを発信するなど、緊急の連絡を行なっています。

高専機構に『KOALA・ザイトス』というシステムがあり、その中に新聞等に掲載された情報について、それぞれの高専が共有するシステムがあります。そのシステムに本校からも掲載しており、12～14ページのように学校関係、教員関係、学生生活関係に分類して掲載しています。このシステムへの掲載件数は、平成21年度は統合の年であったことから半年で30件、22年度が61件、23年度が現在45件となっています。

広報はこのような形で行なっております。以上、現状をお話させていただきました。ご意見等をいただければと考えています

広報活動について

総務・広報室長 田嶋 真一

広報情報等について

- 地域の活性化
 - 公開講座
 - 発明クラブ
 - イベント・理科教育支援
- 経済(産業)の高度化
 - 技術講習会(かがわ産業支援財団主催を含む)
 - 地域ニーズによる三豊市・高専発シーズ創出
 - 香川発大学・高専シーズ発表会
 - 産業技術振興会との連携
- 学校の活動
 - 緊急連絡(休校連絡等)
 - 行事予定
 - メール通知システム

広報の媒体等

- 文教速報(官庁通信社, 隔日(月・水・金)発行)
- 文教ニュース(文教ニュース社, 月曜日発行)
- 自治体広報
- 本校ホームページ(お知らせ)
- 本校ホームページ(Topics)
- 記者クラブ投込み
- 香川高専だより(6・10・3月発行)
- 本校ホームページ(ICTオープンキャンパス)
- その他

2

文教速報

(官庁通信社, 隔日(月・水・金)発行)

- 『文教速報』は全国の国立学校, 独立行政法人等の動向・人事等を中心に編集し週3回刊行。全国の文教関係に携わる読者に最新の情報をお届けしております。
- 平成23年5月17日～平成23年12月2日
 - ・ 投稿件数32件
- 平成23年5月20日～平成23年12月16日
 - ・ 掲載件数32件

3

文教ニュース

(文教ニュース社, 月曜日発行)

- 文部科学情報と銘打つこの冊子は、職員の間ではよく読まれているが、教員の間ではなじみが薄い。全国の国立大学や高等専門学校等の実情を把握し、高専改革のヒントを得るには格好の材料を与えてくれる情報満載であり、教育関係者にとって必読冊子といえる。
- 平成23年5月17日～平成23年12月2日
 - 投稿件数32件
- 平成23年5月23日～平成23年12月19日
 - 掲載件数11件

4

本校ホームページ (お知らせ & TOPICS)

- お知らせ
 - 告知・募集等
 - 74件
 - (H23/4/1-12/末)
- Topics
 - 実施報告等
 - 252件
 - (H23/4/1-12/末)

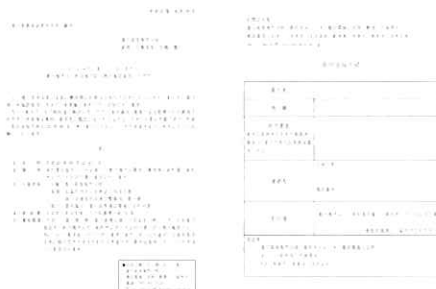


5

記者クラブ投込み

報道関係名

- 香川県政記者クラブ
- 香川県教育記者クラブ
 - ・ 香川県庁記者室教育記者室
 - ・ 香川県庁教育委員会総務課企画・広報グループ
- 高松経済記者クラブ
- 高松市政記者クラブ
 - ・ 高松市役所市政記者室
- 丸亀市政記者クラブ
 - ・ 丸亀市役所市政記者室
- 善通寺記者クラブ
 - ・ 善通寺市役所記者室
- 三豊市記者クラブ
 - ・ 三豊市役所4階記者クラブ
- 観音寺市役所記者クラブ



6

記者クラブ投込み実績

- 香川県教育記者クラブ5件
- 観音寺市役所記者クラブ5件
 - ・ (1) 平成23年7月8日(観音寺市役所記者クラブ)
東洋未来大学との学術交流行事を実施
民間キャンパス及び高松キャンパス (電子システム工学科長同教授)
 - ・ (2) 平成23年7月21日(香川県教育記者クラブ)
「橋の老朽化対策研究会」のご案内
高松キャンパス (建設環境工学科太田教授)
 - ・ (3) 平成23年7月21日(香川県教育記者クラブ)
夏休みの公開講座「香川高等専門学校ものづくり教室」の実施について
高松キャンパス (技術教育支援室大畑技術員)
 - ・ (4) 平成23年7月21日(香川県教育記者クラブ)
夏休みの出前「科学体験 ものづくり」講座の実施について
～高専生が教員として行う科学コミュニケーション活動～
さめきこどもの国 (技術教育支援室大畑技術員)
 - ・ (5) 平成23年7月21日(観音寺市役所記者クラブ)
夏休みの出前「科学体験 ものづくり」講座の実施について
～高専生が教員として行う科学コミュニケーション活動～
丸亀市飯山南コミュニティセンター (技術教育支援室大畑技術員)
 - ・ (6) 平成23年7月21日(観音寺市役所記者クラブ)
夏休みの出前「科学体験 ものづくり」講座の実施について
～高専生が教員として行う科学コミュニケーション活動～
【小豆島の子供達に香川高専生がものづくりなう!!】
小豆島イマージュセンター (技術教育支援室大畑技術員)
 - ・ (7) 平成23年7月29日(観音寺市役所記者クラブ)
香川高等専門学校民間キャンパス体験入学について
民間キャンパス (学生課)
 - ・ (8) 平成23年9月29日(香川県教育記者クラブ)
がいにみてんまーい! おかわり
～新内海ダム、白国地方防災拠点施設見学バスツアー～
高松キャンパス (建設環境工学科今田助教)
 - ・ (9) 平成23年10月27日(観音寺市役所記者クラブ)
講演会
～女性エンジニアの素敵なお仕事～
民間キャンパス (一般教育科内田准教授)
 - ・ (10) 平成23年11月16日(香川県教育記者クラブ)
～高専生が教員として行う科学コミュニケーション活動～
ペアで2人4腕一歩回し発電機で動かすロボット障害物競走～
さめきこどもの国 (技術教育支援室大畑技術員)

7

香川高専だより

- 保護者・学生対象の広報誌
- 2009年10月香川高専設置後、「詫間だより」/「高松高専だより」を、それぞれ、「詫間キャンパスだより」/「高松キャンパスだより」として、5回発行した。
- 今年度から、「香川高専だより」として発行している。



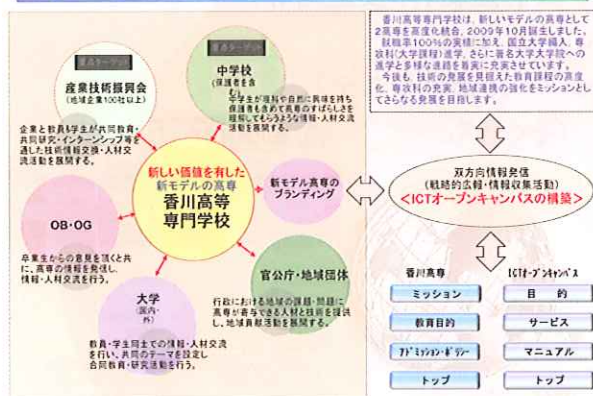
8

本校ホームページ(ICTオープンキャンパス)

- 双方向情報発信による戦略的広報・情報収集活動

- 産業技術振興会
- 中学校
- 大学
- 官公庁・地域団体
- 卒業生

地域産業必要な人材イノベーションのための双方向情報発信戦略イメージフロー



9

○新着情報
503件

○クラブ数
79

1/17現在



10

在校生・保護者

- 緊急連絡(休校連絡等)
- 行事予定
- メール通知システム
(そくせん)



11

[illegible][illegible]

年度/媒体	新聞	テレビ	雑誌	自校web	他機関web	計
H21	25	4	0	1	0	30
H22	37	14	2	2	6	61
H23	31	7	0	0	7	45

7. 香川高等専門学校外部評価委員会 委員からのご意見等（要約）

7. 香川高等専門学校外部評価委員会 委員からのご意見等（要約）

○英語教育の充実について

平成 22 年度の TOEIC について説明がありましたが、大学において多くの学生が大学を受験するときが一番英語ができて、大学で 4 年経つと多くの卒業生は英語が嫌いとか苦手になって卒業していくので、私どもの工学部では、教養教育だけでなく、専門教育の方でも英語を必修にして英語の重要性やモチベーションを高めるようにしています。

今後は情報交換をしながら、お互いの学生のレベルが上がるようにしたいと思います。英語教育のお話で TOEIC 400 点というのは、とてもいい着眼点ではないかと思っております。企業において海外でのシェアが伸びていけば、国内を縮小してでも海外の拠点を強化せざるを得ないと経営者は言っています。今からの若者たちにとって英語というのはかなり欠かせない。或いは車の免許ぐらいのものになるのかもわかりません。そういう意味で TOEIC の点数に先駆けているのは極めて先進的ではないかと思いました。

○中長期の計画と年度計画の進捗状況の検証について

企業の場合で申し上げますと、まず現在取り巻かれている状況に合わせて、課題設定をして主に中期長期目標になりますが、そういうものを立てて、それに向けて全社員がベクトル合わせをして、各部門が具体的に目標を設定し、それに向かって我々の場合は月単位ぐらいに成果をどんどん出し、その結果をみんなで共有するというのをやることにより、随分成果が出てきます。結局、具体的に理念があって、それを全員が共有して各部門が理念の位置づけの状態で具代的な目標を設定し、そしてそれについて毎月フォローアップし、1 年間でどうなったかをまとめます。結果をみんなが見えるように見える化することによって、効果が出てくるわけです。PDCA のサイクルの話とかがありますが、まさしくそういうことで全教職員がともにやるしかないと思います。それぞれの役割分担を決めて、それを責任をもって果たし、結果を公表してお互いに共有していくというような生き方かと思えます。

この外部評価ですが、全体がこうなっているんだということをお示しいただいて、今は何年目でここまで来ているというののももしかしたら必要ではないかと思えます。それから、その年度毎で評価をされていますが、その評価はどこまでいったらこの評価になるのかが少し見え難いのかなという気がします。

○重点課題の絞り込みについて

たしかに目標や理念を設定してやられていると思うのですが、たくさんの課題を作ってしまうとかえって分散しますから、ある程度重点目標に絞り込んで、それについては徹底的にそれぞれ役割分担をし、その成果がどうであったかをきっちりと出しておくというふうにしないと、みなさん頑張ってくださいということだけになると、それぞれバラバラになってしまうという気がします。一番大事なのは理念を全員が賛同して共有できるようなものにしないと形だけにしてしまうと、後に続かないということもあります

○学生の生活指導について

1つお聞きしたいのは、自分の経験も踏まえて、低学年と高学年のところで生活の指導も含めて、どういうケアをされていますか。とくに認識を変えてやられていますか。

○中学生へのPR活動について

基本的なレベルアップのためには、先ほどから話題にあります中学生に対してPRをしていかなければということですが、きっかけは別として、やはり学校の先生とか、そういう繋がりが一番大きかったように思っています。そういうことで、中学校の先生方にどのようにアピールしていくかが大事ではないかと思います。

○基礎学力の向上について

最近は大学へ高校生の約半数が行く時代になり、高校卒業生の採用が難しくなっています。その中で現場を含めていかにしっかりした、優秀な現場を伸ばせる人たちを採用するかということで、そういう意味で高専にはそういう役割を我々は期待しています。そういう意味合いからいいますと、多岐にわたって地域連携や国際交流の活動をしていますが、基本的には入学した学生が数学・物理・英語などの基礎学力をしっかり身につけ、専門の教育もしっかりとやって、そういう学生を社会に送り出すことがやはり基本です。それによって我々企業はしっかりとした教育を受けた人間を、企業に合うように変えていくというのが理想形です。

○高専の取組む地域人材開発について

地域人材開発というのは、地域の人の技術レベルを上げるためにイブニングセミナーなどいろいろ企画するなど、企業関連の技術的な課題に対して協力しており、非常に素晴らしいことですが、人材開発というのはどういう位置で高専は臨まれているのかに少しクエスチョンマークということです。

また、地域連携にしても選択と集中をしっかりやられて、どこかに特化された方がよろしいのではないかという気がします。

○国際的に活躍できる技術者の養成について

県内の企業さんは最近どんどん海外の方へ展開をされておられますが、先日、私どもの主催で海外に展開或いはこれから展開される企業さんと知事との懇談会を持たせていただきました。そのときに出たのが、最近の若い方で海外の赴任を前提に採用するというと、なかなか来てもらえない。国内で仕事をしてもらうということになると来てくれるということでした。海外赴任が前提ですよということになると採用が非常に難しいそうです。そういった人材育成をぜひお願いしたいという声が相当数ございました。先ほどの10年後どうなるのかなというお話のヒントになるかどうかわかりませんが、県内企業の方のこれからの事業運営は、この地域だけにとどまらず、世界各地に展開をされていくということで、そこで責任者や技術者の仕事をする方が絶対に必要になってくると思います。そのあたりを、今後カリキュラムの編成や人材育成の面で少しお考えいただいたらいいようなことがあるのではないかと思います。

○他の教育機関との幅広い交流について

香川大学工学部や農学部、医学部の方と様々な共同事業をやらせていただいておりますが、今日のお話を聞きますと、もっと香川高専の先生方と情報交換をしながら、共同事業や共同研究を積極的に進めていかなければならないということで、大いに反省するところがございます。そのあたりの定期的な情報交換会や連絡会を、ぜひ私どもも持たせていただけたらと思います。それから、その中で最近非常に連携が遅れているのが、例えば工学と医学、工学と農学、そういった特定の分野だけに限らず、もう少し専門が異なったところで共同で研究をしようという流れが非常に多いので、そのあたりも含めて、先ほど物質系のカリキュラムというお話がありましたが、もう少し社会連携というか、広い分野も含めた社会連携の部門も少しお考えいただくようお願いします。

○学生の質の向上や学校の力の向上に繋がる地域連携活動について

地域連携ということでは、みとよ青少年発明クラブに協力いただいておりますが、保護者やクラブ役員の方からは詫間キャンパスで学習をするようになってから一気に能力が上がったと聞きます。こういう高専の活動は高専の支持を広げ、底辺の拡大という意味で高専にとってもメリットがあると思いますし、高校生が小学生を教えるということで高校生の人間的成長にもなるのではないかと思いますし、高校生の活動もそうです。

三豊市の中小企業は、詫間キャンパスから指導・助言を得るなどしていることから、5年前と比べると三豊市の技術の研究拠点になっているように思います。

これらの活動等が学生の質の向上や学校の力の向上ということに繋がるように、今後いろんな点で学内でもご検討いただけたらと思います。

○51 高専における香川高専の評価について

香川高専の取り組みとして産学連携、シーズ発表会、イブニングセミナーなどいろいろやられていますが、全国的にみて51高専中の評価はどうかのかがわかれば、もっとわかりよいのではないかと思います。

平成23年度外部評価委員会報告書

平成24年3月発行

編集	香川高等専門学校外部評価委員会
発行	香川高等専門学校
	〒761-8058
	香川県高松市勅使町355
	TEL 087-869-3811
	FAX 087-869-3819
	URL http://www.kagawa-nct.ac.jp/